聖書研究　チャペル 新訳聖書　６～８章

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責　五M

【要旨】

人が増え、悪が地にはびこるようになると、ヤハウェは、最初の「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」という祝福にもかかわらず、人を造ったことを悔いて、地上から滅ぼそうと決意する。ただし義人ノアには方舟の建造を命じ、3人の息子を含む家族は難を逃れる。生き物も方舟に運び入れられる。40日間降り続いた雨の後、アララト山にとどまった方舟から出たノアたちがヤハウェに生贄を捧げると、ヤハウェは「私は二度と地を呪わない。人の考えることは幼い頃から悪い」と語る。結局、悪はぬぐい去られることはなかったのか？

【知識】

ネフィリム：天使と人間の子→当時の人間はより強い神性を持っていた。

ゴフェル：杉の木

１キュビト（アンマ）：約４５cm

神の子ら：男は堕落した御使いのこと、女はカイン系の堕落したアダムの子孫

【問い】

・なぜ人間に絶望した神は、人間以外の生き物もろとも地の世界を滅ぼしたのか？→なぜノア含め一部の生き物を残したのか？また土から作ればいいじゃん。

・6.3意味を考えてみよう。

・6.6人を造ったことを悔やんでるってどゆこと？神は全能じゃないの？

* 悪が増大した人間って、どんなことをしていたのだろう？
* 神に従う無垢な人間ノアは、他の人間とどう違うか？

・6.18なぜ契約をする必要がでてきたのか？契約って具体的に何？

+9.11で神は人間以外の生物とも契約を立てている。

・7.2/7.3　清い動物、清くない動物って？7つがいって？

・神は人間に愛想つかしたのか？ノアの一族に神は期待していない？

・結局、大洪水によって悪を消し去ることはできたのか？

・クリスチャンの立場になって、この物語について考えてみよう。